第8回宇宙開発委員会(定例会談) 談事次第

- 1. 日時 昭和51年4月28日份 午後2時~4時
- 2. 場所 宇宙開発委員会会議室
- 3. 談題
 - 国連宇宙空間平和利用委員会第13会期科学技術 小委員会について(報告)

(説明者 宇宙開発事業団システム計画部長

黒田泰弘)

4. 資料

委 8 - 1 第 7 回宇宙開発委員会(定例会認) 證事要旨 委 8 - 2 第 1 3 会期科学技術小委員会報告

委 8-1

第7回宇宙開発委員会(定例会議) 識 事 要 旨

1. 日時 昭和51年4月14日份

午後2時~4時

2. 場所 宇宙開発委員会会議室

3. 議題

(1) Nロケット2号機による電離層観測衛星の打上げ 結果の評価について

(2) 電波技術審議会の答申について

4. 資料

委7-1 第6回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨

委7-2 「静止衛星軌道を用いる宇宙通信システムの電波の有効利用のための技術的条件(電波技術審議会答申)」の概要

委7-3 昭和50年度1~2月期に宇宙開発事業団が行った Nロケット2号機による電離層観測衛星の打上げ結果の評価について (案)

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

網 島 毅

委員

八藤東禧

説明者

郵政省電波監理局宇宙通信企画課長

佐 瀨 健治郎

"" 課長補佐

佐 藤 進

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長 文部省学術国際局器議官 大 沢 弘 之

犬 丸

(代理:大坂)

直

通産省機械情報産業局次長

井 川 博 (":角田)

工業技術院総務部長

杉浦博

(": 木村)

連輸省大臣官房参事官

沼 越 達 也

(": 菊地)

気象庁総務部長

宇都宮 寬

(":池田)

海上保安庁総務部長

鈴 木 登

(":佐藤)

郵政省電波監理局審證官

田 博 (":長谷川)

建設省大臣官房技術参事官

宮 内 章

(":渡辺)

海上保安庁政務課

郵政省電波監理局宇宙通信開発課

原

須 田 浩三郎 原 田 祐 治

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

上島史郎

"宇宙開発課長

雨 村 博 光他

- 6. 議事要旨
- (1) 前回議事要旨について

第6回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨が確認された。

(2) Nロケット2号機による電離層観測衛星の打上げ結果の評価について

事務局から、資料委7-3 に基づいて説明が行われ、原案 どおり決定された。

(3) 電波技術密議会の答申について

郵政省電波監理局宇宙通信企画課の佐瀬健治郎課長及び佐藤進課長補佐から資料委7-2 に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

八藤:以前、CCIRで示された有効利用の尺度をあらわす 式は認められたのか。

佐藤:一時は認められる情勢にあつたが、スポット。ビーム については、ずれが大きいということで、ペンディングと なつた。

斎藤:日本が持てる静止衛星は3~4個ということだが、周波数帯を4~6 GHz に制限しなければこの数は増えるものであるということを、説明する際には明確に述べておく方がよい。また、将来の通信量の需要がどのくらいあり、そのうち通信衛星を用いるものがどのくらいあるかということは大きな問題であり、これらについて何らかの試算が欲しい。

佐瀬:我々も考えてはいるが、全情報量をとらえるのは困難 であり、確信のもてる数字がなかなか出てこない。

八藤:静止軌道については有効利用の観点ばかりでなく
equity (公平) についても検討する必要があるが、開発途上国と先進国とのバランスは考慮したのか。

佐瀬:この答申では、国土の広さ、人口及び経済活動の3点から 衛星個数を分配しており、各国の要求数は考慮していないの で、先進国にとつて望ましい試算ではないと考えられ、別言 すれば、発展途上国とのequityも考慮したものとしてとら えうるのではないかと考える。

網島: 静止衛星の数を増すためには、どのような技術的問題を解 決すればよいのか。

佐藤:アンテナパターン、パラメータ等を統一することが有効で ある。

湖島:この祭申の企星们数日必要量を示すものでも、限界を示すものでも、限界を示すものでもなっため、対外的な説明には一十分配度してもらいたい。

国連宇宙空間平和利用委員会 科学技術小委員会才13会期 報告書 I. (1)会期 1976年3月22日~4月9日 AJI 200万 (2)場所 ジュネーブ国連会議場 (3)議長 Prof J.H. Carver (4)参加国 32ヶ周(37年10中) (5)オブザーバー、FAD. UNESCO. 17U等//国体 I.議題(Total 917) A.衛子星によるリモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応用計画について C.宇宙/向題に関する国連会議の開催について C.宇宙/向題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言目整について E. その他. 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの向題 中心機働 (1)リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2)将来のリモートセンシングの毎用に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看 に関する調査	
1. (1) 会期 1976年3月22日 ~ 4月9日 A272回的 (2) 場所 ジュネーブ国連会議場 (3) 議長 Prof J.H. Carver (4) 参加国 327国(37プロサ) (5) オブサーバー, FAO. UNESCO. 17U 等//国体 I. 議題 (Total 91) A. 衛星によるりモートセンシンプの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙向題に関する国連会議の開催について C. 宇宙向題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整 について E. その他 正審議 A. 衛星によるりモートセンシングの向題 中心群態 (1) リモートセンシング 技術での利用に対な資用有効性 (2) 将来のリモートセンシング 東田に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング 地上看	国連宇宙空間平和利用委員会
(1) 会期 1976年3月22日~4月9日 ADI 200万 (2) 場所 シュネーブ国連会議場 (3) 議長 Prof J.H. Carver (4) 参加国 32ヶ国(37ヶの中) (5) オブサーバー, FAO. UNESCO. ITU 等//国体 正議題(では19万) A. 衛星によ3リモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応田計画について C. 宇宙/向題に関す3 国連会議の開催について C. 宇宙/向題に関す3 国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整 について E. その他 正審議 A. 衛子星によ3 リモートセンシングの向題 中心構動 (1) リモートセンシングを行の利用に対す3 質用有効かは (2) 将来のリモートセンシング 毎用に関す3 国連調整 技能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	科学技術小委員会才13会期 報告書
(2) 場所 シニュネーブ国連会議場 (3) 議長 Prof J.H. Carver (4) 参加国 327国(37元の中) (5) オブザーバー, FAO. UNESCO. ITU等//国体 正議題 (では1947) A. 衛星によるリモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙 向題に関する国連会議の開催について D. 科学技行小委員会と法律小委員会の言問整について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの向題 中心構動 (1) リモートセンシングを許の利用に対する資用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの毎用に関する国連調整 接能 (3) 既設 及び計画中のリモートセンシング地上看	I.
(3) 議長 Prof J.H. Carver (4) 参加国 327国(377-104) (5) オブザーバー、FAO. UNESCO. ITU 等//国体 正議題 (Total 97) A. 衛子星によるリモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙问題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の調整 について E. その他. 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 中心が額 (1) リモートセンシングの利用に対する資用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの毎用に関する国連調整 技能 (3) 既設 及び計画中のリモートセンシング地上看	(1) 会期 1976年 3月22日 ~ 4月9日 AJI 2019
(3) 季加国 32+国(37+10中) (5) オブザーバー、FAD. UNESCO. ITU 等//国体 正議題(Total 9t) A. 衛星によるリモートセンシンプの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙向題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整 について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの向題 中心機額 (1) リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 1後能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	(2)場所、ジュネーブ国連会議場
(5) オブザーバー、FAD、UNESCO、ITU 等//国体 正議題(Total 9t) A、衛行星によるリモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙/问題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整について E. その他 正審議 A. 衛行星によるリモートセンシングの問題 中心機働 (リリモートセンシング技術の利用に対する費用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	(3) 議長 Prof J.H. Carver
正議題 (Total 9t) A、衛子星によるリモートセンシングの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙问題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の調整 について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの向題 中心構動 (リリモートセンシングを持つ利用に対する資用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの 毎用に関する 国連 調整 接能 (3) 既設 及び計画中のリモートセンシング地上看	(4) 参加国 32+国(37504)
A、衛子星によるリモートセンシンプの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙问題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言題整について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 かば機動 (リリモートセンシング技術の利用に対する質用有効性) (2) 将来のモートセンシングの原用に関する国連調整 技能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	(5) オブザーバー、FAO. UNESCO. ITU 等 //国体
A、衛子星によるリモートセンシンプの向題 B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙问題に関する国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言題整について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 かば機動 (リリモートセンシング技術の利用に対する質用有効性) (2) 将来のモートセンシングの原用に関する国連調整 技能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	
B. 国連宇宙応用計画について C. 宇宙 问題に関する国連会議の開催につれて D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整 について E. その他 正審議 A. 律予星によるリモートセンシングの問題 中心機動 (リリモートセンシング技術の利用に対する貨用有交が性 (2) 将来のモートセンシングの庫用に関する国連調整 技能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	I. i義題 (Total 94)
C. 宇宙/ 問題に関す3 国連会議の開催について D. 科学技術小委員会と法律小委員会の調整 について E. その他 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 中心機 (リリモートセンシング 技術) の利用に対す3 貫用有効性 (2) 将来のリモートセンシング 運用に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	A.衛星によるリモートセンシングの向題
D. 科学技術小委員会と法律小委員会の言問整 について E. その他。 正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 中心投類 (リリモートセンシング技術で利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 技能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	
正る議 正备議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 Þル群 (1) リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 機能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上引	
正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの問題 中心構動 (リリモートセンシング技術での利用に対する費用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 機能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	D. 科学技術小委員会と法律小委員会の調整
正審議 A. 衛子星によるリモートセンシングの内題 中心機 (リリモートセンシング技術での利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	1=7~2
A. 衛星によるリモートセンシングの問題 中心構動 (1)リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 接能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	E. その他.
A. 衛星によるリモートセンシングの問題 かは機 (1) リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2) 将来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 投能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	
(1)リモートセンシング技術の利用に対する質用有効性 (2) 桁来のリモートセンシングの運用に関する国連調整 投能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	
(2) 将来のリモートセンシンブの運用に関する国連調整 機能 (3) 既設及び計画中のリモートセンシンブ地上看	
後能 3) 既設及び計画中9リモートセンシンブ地上看	•
(3) 既設及び計画中のリモートセンシング地上看	
に国する調査	
	に関する調査

- (4) 国際的地球資源管里の折束運用に 闽打3調查
- (5) リモートセンシングデータに対するユーザ便」の 需要調查
- (6) リモートセンシングデータの使用に関する訓練 計風
- · 管子星によるリモートセンシングは、地図作成、鉱物 資源探查, 環境污染調查等に幅及く利用了 れる。しかし重要性のランフ付け、費用の有効サま に対する評価等は国情により異なり一律的な 尺度を設けることは不可能である。一般に芸面 して求められているのは地図の作成で、樹発金 上国にあいる特に要望が高い。
- ·LANDSATにおいては管星搭載aラープレコーダ を活用して米国で受信する方式と、米国以外で 受信する方式があるが、後者の方式はカナダ ブラジル、イタリーの地上局で既に運用中で ある。チリ、イラン、ザイールも米国と協定を結んで 建設中である。

個星の米・ソのみ.

。国際的管理運用については、米国は現行の 2回旬協定により旨く行われており、それ以上の Vikateral agreedent

全世球的な調整は少くとも当分無意味
という見解であった。
· 南発途上国ができるだけ早く国連等により
全地球的に調整運用されることを望んで
v3雰囲気があった。
。ソ連は自国の打上中的衛星を望まれるならる
国連等の管理下におかれる国際衛星として大
よい旨の発言を行った。欧ロブルグリアと協定を任んだ
。結局、国連とには現行の二国協定による
運用等に関論を唱えるそのではなく、また
近い将来に固連自ら管す星または地上面を
門有し、運用することはありえないが、国際的
運用管理。可能性について今後とこる研究
を続けて行くことを今期の旅論とに報告
することとなった。
B. 国連宇宙応用計画
パネル、セミナー、トレーニング等について過去ー
年间の活動状況と開催国への訓辞. 今後
の計画が述べられた、ソ連より会議の重複が
名いので 財政的 人的事情より 総合整理

が望いとの発言があった。 C. 宇宙问題 1- 寅 13 固連会議 スプートニフの20周年を記念し発該された この会議について、ソ連は議題を終ることの 困難は、会議の重複等を理由に用催に疑 肉を示した。他に多くの国が議題範囲を 明確にすべしとの意見を述べ結局カナダが 当衛国となりさらに検討することとなった。 D. 法律小委员会 La 調整 リモセンデータの他国への配布問題、天然 資源 の定義,宇宙高度の定義等,法律小委 員会においても討議調整よれるべき問題 Bractical Purpose がるい。 今期ベルギーより「宇宙高度は100 km とするのが適当である」という石所完論文か 発表されたがこれに対し米国4の他の国々 より反言命かあり、今後法律小委員会と 連絡をとりながら さらに検討を続けること となった。 En科学技術小委員会の将来の役割と業務

次の三問題を今後の主要課題とした。

(1) 衛星によるりモートセンシングの内題
(2) 宇宙忘出二度了3 国連計画
(3) 宇宙問題に関する国連会議の開催
2) 园連機構における宇宙活動
法律・科技両小委員会にまたがるりモセン
関係のワーキンググループの設置を検討
することとなった。
التناقيان التناوي والمتناف المنتوان والمتناوي والمتناول والمتناول والمتناول والمتناول والمتناول والمتناول والمتناول